

173 東京法学院記事（第十七回卒業式・優等生氏名）

〔『法学新報』第十二卷八（一三七）号

明治三十五年八月十日〕

東京法学院記事

○第十七回卒業証書授与式 前号に予報せし如く七月十二日午後二時より同院大講堂に於て挙行す卒業生、講師、来賓一同着席するや第一に幹事法学博士土方寧氏詳細なる学事報告を為し次て院長法学博士菊池武夫氏卒業証書及び褒賞を授与し終りて卒業生に対し一時間以上に涉り懇篤なる告辞（次号の本誌論説欄に掲ぐへし）を述べ卒業生総代荊木久二郎氏の答辞あり次に来賓総代法学博士穂積陳重氏の演説（本号論説欄参看）院友総代福田又一氏の祝詞ありて全く式を終りたる後院内に於て盛なる立食の饗応ありたり因に記す当日の来賓は外務大臣小村壽太郎、法学博士穂積陳重、岸本辰雄、東京地方裁判所検事正川

淵龍起の諸氏外二百名以上なりし

尚ほ卒業生総代の答辞及び福田又一氏の演説要旨左の如し

△卒業生総代の答辞

茲ニ我東京法学院ハ、生等第十七回卒業生ノ為メニ、卒業式ノ盛典ヲ挙ケラルルニ会シ、貴賓各位カ光臨ノ榮ヲ賜ヒ、此挙ヲシテ盛ナラシメタルハ、生等ノ深謝ニ堪ヘサル所ナリ、殊ニ、院長閣下ノ優渥ナル告辞ヲ辱ウシタルニ至テハ、生等ノ榮譽、何者カ之ニ加ヘンヤ。

種子培ハサレハ萌芽生セス、萌芽矯メサレハ材タル能ハス、生等ノ本院ニ学フ、恰カモ種子ヲシテ育成セシムルニ比スヘク、培養矯正ヲ受クル茲ニ三年、梢々幹根其形体ヲ成シ独り滋養ヲ採リ、又自ラ霜雪ニ具フルヲ得ルニ至ル、其尚ホ進テ榮養ヲ採テ、喬木タルヲ期スルト、又ハ直チニ出テテ、応分ニ社会ヲ建造スルノ材タルニ任スルトハ固ヨリ各材其選ヲ異ニスルニ由リテ差アルヘシト雖モ、能ク今日アルニ至リタル所以ノ者ハ、等シク三歳薰陶ノ恩沢ニ帰セサルヘカラス、今ヤ茲ニ我東京法学院ハ第十七回ノ卒業式ヲ挙行セラレ、生等ニ許サルルニ、梢々材タルコトヲ得ヘキヲ以テセラル、惟フニ卒業式ハ、本院内ニ湛ヘタル水ヲシテ院外ニ流出セシムル一ノ堰ニシテ、生等卒業ノ榮ヲ得タル者ハ將ニ之レ、法学院ノ延長ト見ルコトヲ得ヘク、各生ハ其延長ノ一部ヲ為スモノニシテ、常ニ東京法学院ヲ双肩ニ荷フモノト謂フヘシ、願フテ茲ニ至レハ生等ノ任モ亦重イ哉、則テ窃カニ心ニ誓フテ謂ヘラク、各先生カ、生等ノ為メニ親シク三歳教鞭ノ勞ヲ厭ヒ賜ハサリシ所以ハ、生等ヲシテ、他日世

用ヲ為サシメ、以テ国家社会ヲ益セシメントノ意ニ在テ存スヘク、随テ、生等カ各先生ニ酬ユルノ途モ亦、単ニ世用ヲ為スニ在ルヘシ、生等永ク此意ヲ体シ、各生ノ力ニ応シテ以テ、各先生ノ恩沢ニ答ヘント欲ス、聊カ微衷ヲ陳シテ各先生教化ノ高恩ヲ謝スルコト爾リ。

卒業生総代

明治三十五年七月十二日

荊 木 久 二 郎

△福田又一氏演説要旨

私カ諸君に申上げたいたのは日本は生産力に乏しいといふことを聞いて居ります日本は總ての發達に於て殖産であるとか其他生産の力カ極く鈍いといふことを聞いて居りますけれども人間を拵へるといふことか余程巧みであると見えて年年四十万以上殖えて居ります是は余程日本人か他に誇る所の生産力を持つて居ると思ふ、それて年年歳歳人口カ増加すれば其結果本校に限らず法律を修むる者カ多くなるであらうと推測致します、しますると法律家カ余程沢山になつて如何なる事をするかといふことを考えなければなりません今日に通弊として法律学を學んだ結果はどうしても高等文官試験或は判検事試験若くは弁護士試験を受けなければ肩身カ狭いといふのか普通に考てあらうと思ひますけれども茲に考へなければならぬのは判事にしる検事にしる諸君カ非常の才幹を具へて居つても日本政府か之を採用する人間には限りかあります到底皆さんを悉く採用するといふことは出来ぬそこで此判検事、高等文官を除けばアトに残つて居るものは弁護士であります、是は何千万人弁護士カ殖えやうか一

人でも弁護士の数が多くなればそれだけ政府の財源か殖えますから政府では喜ぶかも知れませぬか、他の官途―判検事、高等文官には制限があるから為れないとして日本に何万という弁護士の数か殖えたらとうていございませう是も需要供給の原則に依りまして段段報酬が減つてしまふ、終にはタゞでやつても頼み手か無いことになりはせぬかと思ひますからはも余程考へなければなりません、世の中は余程茶人的なものでありまして新規定な学問をされた諸君か弁護士に為れば其人の学理に精しいといふことは申すまでもありませぬから世の中の人に歓迎されさうなものであるのに、それが却てさうでなく頭の禿け工合かチョットおつな古色蒼然たる人か世の中にもてるのです、物を聞いても要領を得ない人の方か信用を得るといふ世の中でありますから、需要供給の原則のために依頼者は無し又此茶人的の考えから、もてないことになるかと弁護士になりましたも余り面白くない状況であらうと考へる、さうなつて来ますると弁護士といふものも余り感心したものではない、そこで私は一步を進めて然らはどういう事をしたら宜いかと考へるのに一昨日私の所に大学の卒業生か参られて私は今度高等文官試験を受けて見やうといふ話でありました、そこで私かそれではアナタは将来高等文官になる御考であるかと問ひましたら、イヤさうではない此假実業社会に飛込んで試験を受けてしまつたと言はれるのか残念であるから試験を受けてから往くと斯ういふ話でありました私は茲に至つて戯談でなく大に考へた、兎に角其人は大学の卒業生である而して日本の人の寿命か短いナカ―自分か

始め一定の目的を立てても其目的地に到着することか出来ぬのである然るに悠悠閑閑世間体を繕ふ為めに高等文官の試験を受けなければ実業社会へ出られぬのなんのといふことは実に訳の分らぬ話である試験を受けた所か何等の利益の無いことではないかといふことを言つたのです、是は全く私の誠心から言つたのであります、日本の人間は寿命か短いのに余計な道草を食つて貴い月日を費して居るのであります、それは世間体は宜いか知れまもぬか何の役にも立ちませぬ、法律を学んだ者か兎角さういふ妙な考を持つのは間違ではないかと考へます、自分か一旦目的を立てたならば他の人か笑はうか誹らうか少しも気兼をするには及びませぬから誰か何を言はうとも勇往邁進一步も譲らぬやうにありたいと考へるのでございます

元来日本人の欠点として武士は「食はねと高楊子」といふことか深く頭に這入つて居りはせぬかと考へます真に銭か欲しくても死んでも乃公は銭は欲しくないと空威張りをして居る風か昔から遣つて居る此武士の風を百姓町人か真似るやうになつたから「武士は食はねと高楊子」といふことか余程日本の発達を害して居ると私は考へる、それから日本の人は職業の貴賤を選む併しなから世の中の事業に貴賤は無い例へは此家屋の天井板でも又敷板でもドレか貴いドレか賤いといふ区別はない皆それ／＼の働をして此家屋を構成して居るのであります、それ故に職業の貴賤の別は決して無いのであります成程仕事の上には泥をいちることと筆をいちることとの違はありまじやうケレドモ労力を神聖なるものとすれば職業に上下貴賤の区別は無いと考

へますそれ故に自分か此事をしたいと思つたならば法律を学んだから必ず法律家にならなければならぬと云ふ理由はこさいませぬから自分か斯ういふ事をすれば位地か安全な勢力か張れると見込んだならば誰に気兼ねをすることはない直ちに其方面に這入つて往くか宜い、自分かそれに向つて円満に進んで行きましなならば始めは面白くない奴か来たと思はれるか知れませぬかそれは此方の考次第で、詰り世の中の人は實際と理論とを併せ得て居る者か少い、学問の有る者は實際を包容することか出来る此方か大きな考を持つて居れば實際家と衝突することは無いと思ひます衝突するといふのは包容する力量か少いからであらうと思ふ

尚進んで私は斯う考へる、法律を学んで法律家になることは宜い併しなから今日の法律は社会のドノ部分でも必要で無いものはありませぬから、さういふ所へドシ／＼這入ることか必要でありません尚日本ではエライことを言ふて居りますか實際上の権力はとうなつて居るかと云へは随分疑はしい点もあると考へますから国の為に権利を拡張する方に進んで往きたいと考へる、斯様に申せば先づ貴公から始めよといふ御方があるかも知れませぬ是は御尤でありますか人間はケチな考を持つて居るもので一週間に一遍硬い牛肉でも食ふやうになると其家を捨てて往くといふことは容易に出来ぬのであります例へは北海道へ往くに付ても人か躊躇するといふ有様であります況や外国に踏み出すに於ておやてあります、諸君は年か若くて学問を仕上げた所であつて意気か壯んである且つ家を成して居るといふ方でもあり

ませぬから家を捨てるといふ煩もない従て諸君は一番適當で且必ず実行し得られるであらうと信じます

以上述べました如き次第でありますから諸君に希望するのは奮つて海外的仕事をやつて頂きたいのであります或は時に失敗することもありまじやうケレドモ失敗も終には自分の幸運になると考へるのであります失敗をした人て無ければ詰り斯ういふことか頭に浮ふまいと思ひますから学校か私に祝辞を述べるといふ御命令に対して謹んで御請けを致したのであります先輩の失敗を後輩か償ふは失敗も亦吾吾の名譽になると考へましたか故に聊か希望を述へて本日祝辞と致します

○優等生の氏名 卒業生の氏名は前号に報道したるか優等者の氏名を挙げれば左の如し

△英語法学科

第三年級 池田寛作 澤田 宏

第二年級 特待生高橋源五郎

第一年級 特待生松尾參三郎 柳澤慎之助

△邦語法学科

第三年級 荊木久二郎 丸山柯太郎 秋山常吉 米原芳藏

辻 進 秋山専藏 國重貞熊 野村調太郎

小野 廉 三木五十也

第二年級 特待生鈴木 部 特待生星 與市 特待生松林治義

特待生齋藤源五郎 特待生幸 辰彦 品川英一

堀 六治 眞野歡三郎 菅野辰六 田中小市

第一年級 特待生柚木周平 特待生廣澤亥之助

特待生内山芳治 特待生石川吉衛

特待生甲斐 豊 特待生天野宗太郎

特待生妹尾繁雄 樋口定雄

岩橋一臣 中村貴彦 引野宇一郎